

授業科目名	幼児と表現	担当教員名	和田 宏一 / 石田 晶大
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分 等	領域及び保育内容の指導法に関する科目-領域に関する専門的事項 表現 / 保育の内容・方法に関する科目
必修-選択/単位数	必修 / 1単位 (15時間)	授業方法/担当形態	演習 / オムニバス
開講学年/学期	2年 前期 (1期) / 年間開講数 1講座	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 ピアノ、声楽指導者として音楽教室を主宰している経験を活かし、音楽の基礎的知識、技能の習得のための指導を行っている。<池内>
授業の概要及び全体目標	領域「表現」のねらい及び内容を理解するために、子どもの表現活動に関する発達過程を踏まえて学習します。子どもたちが感じたことや考えたことを自分なりに表現することや、豊かな感性や表現する力を養うための知識、技能を身に付けます。(アクティブラーニングとしてグループワークを取り入れる) ※ICTの活用、協働学習を含む。		
到達目標	<p>1-保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)</p> <p>(1)各領域のねらい及び内容：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 ①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ②当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 ④領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)保育内容の指導方法と保育の構想：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 ①幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 ②各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 ③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ⑤各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>2-保育内容演習</p> <p>(1)養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 (2)子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点 (「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」)と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域 (「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 (3)上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えたとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 (4)子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程 (計画・実践・記録・省察・評価・改善) の実際について理解する。</p>		
テキスト	<和田>「第2版 アクティブラーニングを取り入れた 子どもの発達と音楽表現」櫻井琴音・上谷裕子 編 (学文社) その他、適宜資料を配布する。 <白波瀬>「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材」樋口一成編著 (萌文書林)		
参考書・参考資料等	「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社) <和田>「表現指導法 感性を育て、表現の世界を拓く」上野奈初美 編 (萌文書林) 「幼児の音楽教育法 美しい歌声をめざして」吉富功修・三村真弓 編 (ふくろう出版) 「創造性を育む 乳幼児からの音楽表現」佐野仁美・岡林典子 編 (ミネルヴァ書房)		
成績評価の方法	<和田>レポート・提出物…50%、歌の演奏発表…20%、平常点 (受講意欲・態度) …30% <白波瀬>ワークシートにまとめ、学びの過程を評価 (60%)、自ら課題を発見し積極的に取り組む授業参加度 (40%)		
授業外 (事前・事後) 学習の方法、オフィスアワー等	<和田>事前学習については授業で指示する。事後学習はコメントシートの提出を指示する。 オフィスアワー：火曜日14:30～15:00、水曜日14:00～14:30、金曜日16:30～17:00。質問は授業時間の前後でも受け付ける。 <白波瀬>事前学習はシラバスに記載している内容を確認し準備しておく。事後学習は授業内容をふりかえりワークシートにまとめおく。授業に関する質問は授業前と授業後に受け付ける。		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	・子どもの音楽表現活動について／歌う活動 領域「表現」のねらいおよび内容、領域「表現」のどらえ方、音楽表現活動の種類、音楽表現と他領域との関連、音楽表現活動における保育者の役割、小学校との接続・連携、声の出るしくみ (担当：和田)	1-(1)-①,1-(1)-②,1-(1)-④,1-(2)-①,1-(2)-⑤,2-(1),2-(2),2-(3)	
第2回	・発達段階に応じた音楽表現活動／歌う活動 評価の考え方、年齢ごとの発達と音楽表現活動、音楽の要素と音楽表現、自然で楽に歌うための考え方とエクササイズ、歌う姿勢と呼吸法、歌のフレーズの表現法 (担当：和田)	1-(1)-①,1-(1)-②,1-(1)-③,1-(1)-④,1-(2)-①,1-(2)-⑤,2-(1),2-(2),2-(3),2-(4)	
第3回	・聴く活動／歌う活動 子どもの発達と聴く活動、聴く活動の意義とねらい、身の回りの音に注目する、生活の歌、春～夏の季節の歌 (担当：和田)	1-(1)-①,1-(1)-②,1-(1)-④,1-(2)-①,1-(2)-⑤,2-(1),2-(3),2-(4)	
第4回	・歌う活動／つくる活動 子どもの発達と歌う活動、歌う活動の意義とねらい、わらべうた、歌の演奏発表、手作り楽器の製作 (担当：和田)	1-(1)-②,1-(1)-④,1-(2)-①,1-(2)-⑤,2-(1),2-(3),2-(4)	
第5回	子どもの発達段階と造形活動について 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容を理解する。(担当：石田)	(1)-①,②,③ (2)-①,②	
第6回	子どもの発達と造形表現の特性について 様々な実物参考事例や作品、ICTを活用した画像事例などから理解を深める。(担当：石田)	(1)-①,④ (2)-①,②	
第7回	造形活動の材料について 子どもの造形表現活動で用いる材料の特性を使用事例や実際に使うことによって理解を深める。(担当：石田)	(2)-①,②	
第8回	造形活動の用具について 子どもの造形表現活動で使用する用具の特性を使用事例や実際に使うことによって理解を深める。(担当：石田)	(2)-②	